大阪の教育

大阪教師会

〒596-0814
大阪府岸和田市岡山町
443-13
電話 090 (7363) 9544
振替口座 00910-9-1433

第五十七回日本教師会 大阪大会成功裏に！

平成二十九年八月五日・六日に日本教師会教育研究大阪大会が多数の参加者のもとで行われた。

小学校・中学校で来年・再来年に教科として実施される道徳科のあり方並びに通知表に評価を記入しなればならない。それを受けて第五十七回大会はそのことを研修の中心にすえ行うことができた。

現場では、どのような学習指導が、子供たちが考え、議論し、深まりのある学習になるのか研修が必要になってくる。教師会はそのことを考え本大会を設定した。

初めに、

記念講演

「アメリカの道徳教育の動向」
キャラクターエデュケーションと

P B I S S

皇學館大学准教授 渡邊 毅

要旨をまとめて記載する。

三〇年度より小学校で道徳科が完全実施になり、実効性のある道徳教育が求められる。

それにはアメリカの道徳教育「キャラクターエデュケーション」が参考になると思われる。理由は、それを実施したところ子供たちの学力が向上したという調査結果がいくつか出ていることと、ある中高一貫校の資料によれば、それを始める前は一万一千件の問題行動があったのが、実施後は三千件も減ったという顕著な効

果が認められたからである。

1、キャラクターエデュケーション登場の経緯

一九六〇年代からアメリカでは、道徳性は個人的な価値判断であるという考え方であった。そこで価値の明確化という授業に子供の内面の価値が明確になるよう支援する授業がよく行われた。

またモラルジレンマという授業もはやった。これはAという道徳的価値とBという道徳的価値を対立させる葛藤が生じる、それを子供たちに議論させるといふものである。

しかし結果として道徳心が身につかなかつた。それどころか、学校で暴力行為が頻繁に起き、麻薬が蔓延するなど、子供たちの問題行動が増え、場所が学校だとさえ言われた。

これを受けてアメリカの教育学者ウイリアム・キルパトリックは「アメリカ人は道徳教育の実験に失敗した」と言った。またモラルジレンマを開発したローレンス・コールバーグは、「道徳教育の一部では価値の注入というところを行わなければならぬ」と最終的に結論づけた。この学者はもともと価値伝達（インカルケーション）さえも批判的であったが、失敗を目の当たりにして、主張を変

えたのである。

アメリカの道徳教育は八〇年代から九〇年代にかけて大きく変わった。キャラクターエデュケーションが登場し、今日では主流となっている。

2、キャラクターエデュケーションとは何か

①道徳的価値を教える

男性が化粧してピアスをするのは反対だと言う人もいれば、問題ないという人もいる。こういう一般的価値は考え方に違いがあってもいい。

しかし、道徳的価値は誰もが良いと考えることで、朝「おはようございませう」と挨拶をしたら、けしからんという人はいない。

②良い習慣を形成する

アリストテレスは「それは小さな違いではない。私たちがとても若いときから、ある習慣、他の習慣を持つかどうか・それが大きな違い、そしてすべての違いを創るのだ。」と習慣形成の大切さを述べているが、その考えに由来している。

③行為で示す

良いことは行為として表すことによつて初めて善意は相手に伝わるといふ考え方である。

3、キャラクターエデュケーションの実際

(1) 道徳的価値を教える工夫

アメリカの学校では次のような価値を大事にしている。

- ① 尊敬 ④ 責任感 ⑦ 忍耐強さ
② 奉仕 ⑤ 自己統制 ⑧ 正直さ
③ 共感 ⑥ 勇気 ⑨ 安全

その中で特に大切にされているのが①尊敬と④責任感で、あとはこの中から一つくらいを選んで、学校で特に大事にする核的価値(徳目)として学校内に掲示している。

行事でもキャラクターエデュケーションが行われている。毎月テーマになる道徳的価値を決めていて、今月は「責任感」、来月は「尊敬」という具合で、その月の行事はその道徳的価値とからめてやっている。

キャラクターエデュケーションの授業は大体三〇分ぐらいで行う。例えば「リスペクト(尊敬)」を伝えるものは何かを考えさせる。見えるものでは姿勢、おじぎ、真剣な表情などがあること、聞こえるものならば話が終わった後の拍手、挨拶の声、お礼の言葉などがそれを伝えるものとして子供たちに気付かせる。

アメリカでも読み物資料を使った道徳授業はあるが、違うのは発問の仕方である。例えばオリンピックで

活躍した選手の話を使った授業をする時、日本では主人公が「困難などきどんな気持ちだったでしょうか」と心情を聞くことが多い。アメリカでは主人公が「優勝するためにいかに忍耐したか」と道徳的価値の言葉をに入れて聞いている。

(2) いじめ問題に対する授業

日本では読み物を読ませ、被害者、加害者、傍観者の立場からいじめを考えさせることが多い。アメリカでは実際に起きたいじめ事件を検討するという授業をやっている。

例えば試合でミスして負け、メンバーからいじめを受けていたという実話を使って、「互いに思いやる精神が大切だ」という一般的な話し合いをしてから被害生徒の努力のプロセスを重視すべきとか、被害生徒を教師や仲間が守るべきだとか、被害生徒がうまくプレー出来るように支援すべきだといった具体的な解決策を授業のなかで出していく。

(3) 偉人伝教材の活用

キャラクターエデュケーション研究の第一人者ケヴィン・ライアンは「人格教育の非常に強力な源泉である模範的例は、我々が伝えようと思うものの一つである。特に文学や歴史、偉人の伝記を教えることは、学校で継続して行うべきことの一つである。青年に私達自身の人生だけでなく、世界や歴史上の人物について記されたよい人生を提供することが必要である。」と言っており、偉人の伝記は重視されている。

なく、世界や歴史上の人物について記されたよい人生を提供することが必要である。」と言っており、偉人の伝記は重視されている。

(4) 自制心を養うための指導

自分の気持ちを制御できるように、自制心を養う指導を行っている。

気持ちをネガティブからポジティブまで五つのゾーンに分け、今自分の気持ちはどういう状況にあるのか、子供たち自身で考え、表現させる。また「私の中にある私のゾーン」という感情を表すノートを持たせて、少し気分が乗らない時は絵を描き、ネガティブな時は本を読むというように気持ちに対処する方法を書いて実践させている。

(5) グロースマインドセットを導入した指導

これはポジティブに物事を考えさせる指導で「自分の成長は経験や努力によって向上できる」という考え方を持たせている。

例えば「できないと言わず、できると考えなさい」と奨励したり、「これくらいかかないと言わず何が欠けているの、と問いなさい」という風に問いかけたりして指導する。

(6) 月(テーマ)毎に生徒を表彰

学校では月毎に人格的に優れた子供を表彰し、写真を撮って廊下の一帯よく見るところに掲示している。

月のテーマごとに生徒を表彰する中で、毎月表彰される生徒が変わる。

4、PBIS成立の経緯

アメリカでは一九九〇年代から二〇〇〇年代には、学校が大変荒れていた。そこで「ゼロトレランス」(寛容さなし)という非常に厳しい指導が行われた。学校毎に親と生徒のためのハンドブックがあり、細かい決まりが書いてあつて徹底的にやつた。その結果、随分と収まってきたが、弊害が出てきた。普通の子供にはいいが発達障害の子には逆効果だというのである。そこで九〇年代後半からPBISが登場してきた。

最初は行動障害児の社会性の発達を促すために開発された指導・支援の方法として出てきた。それがPBISの指導は行動障害の子供たちだけでなく、一般の子供たちにも有効だということが分かってきた。

現在では、ゼロトレランス方式を一部残しつつ、PBISの指導が全米的に実施されている。

PBISとは、肯定的な行動的介入と支援という意味で、何がポジティブかと言うと四つの意味がある。

①新しい問題行動が生じないように、そして、既存の問題行動が再発しないように予防する。

②問題行動の替わりになる、より望

ましい社会技能を教える。

③子供の成功と達成を重視する

④子供が望ましい行動をしているところを日頃から捉えて承認する。

5、PBISの実際

(1)「期待される行動」を教える

まず各学校で先生方が話し合い「期待される行動」表(いろいろな場所での望ましい行動が書いてある)を作成し、子供たちに示していく。そこには道徳的価値に対して望ましい行動例があげられているので、道徳教育と生徒指導の接続が見られる。

(2) 教え方

ポジティブな行動を教えるやり方はいわば山本五十六方式である。

- ①先ず言葉で説明して、②教師が模範を示し、③子供にやってみさせ、④うまくできたら誉め、⑤うまくできなかつたら、どこがうまくないか説明してもう一度やらせ、⑥期待される行動を自分ですらすらできるまで繰り返し練習させる。

(3) 称賛カードで「期待される行動」を強化

子供がよい行動をしても言葉だけでなく忘れることがある。子供にとつてあまり印象に残らない。そこでカードを使ってどの観点でよかったのかを示して誉めるのである。

(4) 問題行動への対処的介入

問題行動を起こすと、先ずその子供にカードを使ってどの徳目に反したかを示す。そのカードが月に三枚たまると、親に知らせが行く。親はそれを見て話をし、サインをして返す。学校で最終的に指導する。

アメリカの生徒指導の特徴は次どのような行動をしなければならぬかを中心に行う。

6、米国の道徳教育から見えるてくる我が国の道徳教育の課題と展望

(1) 我が国の核心的価値は、戦前は教育勅語があった。戦後はないままきたが、それでよいのか。

(2) 考え議論する道徳が言われているが、その前に価値を教えることをしなくてもよいのか。

(3) 行動に結びつく道徳教育にするには、習慣化ということが必要。

(4) 道徳教育と生徒指導の接続が必要である。

と締めくくった。(この講演文責は、日本教師会副会長橋本秀雄氏による)

続いて

実践発表

実践報告者の先生方は、先進的に実践研究をしている方々にお願いた。その先生方を紹介すると、

幼稚園の部として、P・KID's

の山西寿幸先生、小学校の部として、大阪市立香葉小学校の丸岡慎弥先生、中学校の部として、山口大学付属光中学校の藤永啓吾先生、中等高等学校の部として、浪速高等学校・中学校の松尾大輔先生にお願いした。

先ず、幼稚園から実践報告の内容の要旨を報告する。

幼児における道徳性の育成の試み

一、はじめに

P・KID'sでは教育指導要領にあげている三つの柱「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応出来る思考力・判断力・表現力などの育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」を明確にし、幼児教育の特質を踏まえ、幼児期に学びたい資質・能力は、あくまで遊びを通して体験していくことにより、その沢山の体験が経験として定着されることが期待される。

また三つの柱にあげられている「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」については、幼児期において、特に重要であり、「非認知能力」(忍耐力・精神力・協調性)がしっかりと定着させられる時期は、小学校就学前までと

脳科学の面から言われている。つまり小学校に上がる前にしっかりと根付いていないと小学校に入學してから諸問題が発生するようである。

二、P・KID'sの教育について

本学園の目標は「見せる教育」ではなく、「身につく教育」を信念として、流されない精神力・知力・体力を養うことを目的とした教育総合施設である。「三つ子の魂百まで」の教育方針のもと、情操教育、知育教育、社会教育を幼児期より展開し、二十一世紀を動かすリーダーの育成を行っている。知識ばかりを詰め込む教育ではなく、農業や里山生活・自然体験などの実践と共に、日々の繰り返しを徹底した習慣教育を導入し、過去のマニュアルだけに頼らず今日ある状況で、今何が必要か、どうすべきかを模索しながら実践・試行を一つ一つ積み上げている。

三、実践

幼稚園教育要領5領域「健康」「人間関係」「環境」「表現」「言語」全てにおいて「三つの柱」が育つように、今までの各年齢別クラスの枠をなくし、異年齢の子供たちが、一つの教室で活動することにした。

【欧州型指導法】

指導者を複数配置することにより子供たちの成長を細かく見守り、多数の見方や意見を求められるようにした。また子供たちには異年齢の相手と自主的に組み、年長児が年下の世話をする。指導者は今までのような一方的な指導を行うのではなく、助言者としての立場を示し「遊びから真似び、そして学び」の方向へ促すようにして、子供たちの自ら学ぶ力が育つ環境作りを心がけた。

四、孝経音読活動

江戸初期の陽明学の祖とも言われている中江藤樹先生の講義する「孝経」を正しい姿勢で毎日音読している。

子供たちは仲間同士注意し合い、どのような姿勢でどのように音読すれば良いかを考えながら、当番が先に読み、後から全員で読むリード読みを選んだ。

「自分たちの身体はまだ自分のものではない。父母、祖父母、先祖からの命のつながりの一部である。自分が立派な行いをすればみんなが喜んでくれる。さらに自分も立派だねと褒めてもらえる。だから今日も一杯遊ぼう」と声がけをしている。

初めは孝経もたどどしく読んでいるが一ヶ月も経つと暗記までは到達しないがかなり上手に読めるよう

になる。

五、絵本読み聞かせの表現活動

毎日その月の季節にあった昔話・絵本・童話の読み聞かせ、さらに遊びなども取り入れている。終了後はそれについての感想を出し合い、話し合いを行っている。

六、異年齢間能動的数や言葉ワーク学習

ワーク学習を異年齢間で行うため、双方にとっても学習効果が高い。

七、成果

研究目標（三つの柱）を定めて教育活動を行った結果とし数値化はしていないが、徐々に子供たちに変化が出ていることは確かである。それは消極的・自己中心的であった子供たちが積極的且つ他者思いの発言や行動が増えたように感じている。さらに学園の教育活動に関心を示すようになってきたことである。

小学校における道徳教育

「道徳読み」と「ミニ道徳ノート」で教室の道徳教育を充実させる

一、はじめに

今まで「道徳教育は教育活動全体で」と言うことと「道徳の時間を要として」と言われてきた。

では、実際に現場ではどれだけ道徳教育が行われているのだろうか。私の現場感覚から見るとまだまだ十分な道徳教育が行われているとは思えない。その原因としては、道徳の授業をどうしてよいか分からない。教育活動全体としての道徳教育というものをどうしてよいか分からない、という二点があげられる。

そこで私が現場で実践しているものを実際に取り上げる。週に一度の道徳授業を充実させ、教育活動全体としての道徳教育を示すことを目標としている。

二、現場に時間がない

若手教師から次のような相談を受けることが多い。「道徳の授業をどうすればいいですか。」「道徳の授業の仕方が分からない。」など、これは道徳の授業が長い間実践されてこなかったことによるものである。また研究授業のために行われ準備し尽くされた授業記録だけが記録として残り、「日常の道徳授業」の文化が蓄積されてこなかった。

だからこそ、多くの先生方はどう

しているの分からないのである。現場の先生方は何かと忙しい毎日を過ごしている。そんな中にあっても授業は充実させなければならない。特に道徳授業は学級経営の要であり、道徳授業が充実しない学級経営はあり得ないのである。

三、道徳読み

そこで、私は横山駿也氏が提唱された「道徳読み」を中心に実践を行っている。「道徳読み」の実践は次のような特徴を持っている。

- ・短時間で教材研究が完了する。
- ・どのような教材でも応用が可能である。
- ・繰り返し実践できる。
- ・短い時間で準備ができ、効果が期待出来る。
- ・子供たちが道徳を自ら学ぶ習慣が身に付く。（道徳の時間だけでなく、全教科）

「道徳読み」とはどのようなものなのだろうか。子供たちには、道徳の授業開きで次のように説明する。

道徳の時間では、道徳の頭で考えしてもらいます。道徳の頭で考えとはどういうことなのでしょう。例えば、次のような問題文があるでしょう。

次郎さんは花を7本持っていました。

花子さんは、次郎さんから3本も
らいました。

この話の続きが

次郎さんの花は何本残りますか。
と続くと、みんなは「算数頭」で考
える事になります。

花子さんはどんな気持ちだったで
しょう。

と続くと、「国語の頭」で考えますね。
では、次のようにお話が続くとど
うでしょうか。

花子さんは本当に花をもらって良
かったのでしょうか。

このように話が續くと、みなさん
は「花子さんの行動」に意識が向い
ていたはずですが、これが「道徳の頭
で考える」ということです。

こうして、子供たちは道徳読みと
いうものが何かを知ることになる。
それから、具体的に道徳読みの授業
に入る。進め方はきわめてシンプル
である。

四、道徳読みの進め方

①教材文を範読する。その際に、子
供たちは「ここが気になるな」「ここ
いいな」と思う部分に線を引きなが
ら範読を聞く。

②範読が終わったら、子供たちはノー
トに自分の学びを書いていく。その
際、初期の頃は教師の方からフォ
ーマットを与えるといい。

〇〇(登場人物名)の□□□□(行
動や言動など)から〇〇(価値)を
学んだ。と言うような形である。

子供たちが教材を道徳読みで学ん
だ後は、次のような授業展開が考え
られる。

(1) それぞれの意見を発表し合い
交流する。

(2) それぞれの意見の中で、どれ
が一番良い価値といえるかを
検討する。

(3) 主人公の行動は正しかったの
か。

(4) その他。

以上のような観点を組み合わせな
がら授業展開をすることで、子供た
ち自身が教材と向き合って学習する
ことになり深い学びへと進行するの
ではないだろうか。

本年度は、殆どの道徳授業で「道
徳読み」の授業を実践している。道
徳読みは積み重ねて効果が出る学習
方法である。子供たちは、みるみる
うちに自分から道徳的価値を見いだ
すことが出来るようになる。また、
その力を使って、全教育活動でも応
用することが出来る。

五、道徳読みを使った学習展 開

一時間の展開の流れ。

①導入発問

価値に関することや教材に関する
ことを話題に取り上げる。

「今までに友達からしてもらった思
いやりや親切は何ですか。」

「最近自分が出来た節度、節制は何
ですか。」など。

こうした発問を入れることで、そ
の後の授業への深まりへと繋げるこ
とが出来る。

②教材範読・道徳読み
教材を教師が範読する。子供たち
は道徳読みをする。線を引き、範読
後に自分の意見をノートに書く。

③主発問
その教材に合わせた主発問を行う。
議論になることもある。

④まとめ
感想を聞く。

基本的な道徳の授業の流れがこれ
である。こうすることで一時間の授
業システムが確立する。授業は安定
し、子供たちが主体的に学習するこ
ととなる。

道徳読みを扱った授業は、極めて
シンプルである。それに効果が高い。
道徳が教科化されるとどの教室でも
今までやれなかった「道徳授業」が
ようやく日常的に実践されるように
なる。しかし、残念ながら子供たち
の道徳心が高まるような確かな道徳
授業が展開されるのかという不安が

ある事もまた事実である。

そうした不安を解消できる方法の
ひとつが道徳読みの実践なのである。

六、全教育活動で実施する道 徳教育をどう進めるか

いつでも道徳実践が出来るように
と、子供たちにミニ道徳ノートを持
たせている。ミニ道徳ノートは、B
5ノートを半分に裁断したものを使
用している。ここに、道徳に関する
様々なことを日々書き込ませるよう
にしている。一例として

・学校で起こったトラブルについて
どう思うか。

・一年生を迎える会についての感想。
掃除の振り返り。

・朝の挨拶は何点だったか。
など、教師が子供に振り返らせたい
と思うことならどんなテーマでもい
い。

また、子供たちとその都度紹介す
る「名言・格言・道徳話」などもノー
トに書かせるようにしている。

七、道徳読みを日常生活に応 用

道徳の授業で「道徳読み」を鍛え
ている。

子供たちがだんだん鍛えられるよ
うになって来ると次の活動へと移行
することができる。

学級の友達から、道徳的価値を学ぶことが出来るようになる。

例えば、

「今日の〇〇さんの掃除の姿勢から真剣さを学びました。」

「今日の××さんの笑顔から明るい心を学びました。」

と言うように感じるようである。こうした見方が学級内で広まると学級の雰囲気はぐっと良くなる。そして「道徳的に高い生き方をするのが当たり前。」

「道徳的に高い生き方をするのが気持ちがいい。」

というようになる。そうなってくると、子供同士の相互作用で、子供たちが高め合うようになってくる。学級はぐんぐんと良い方へと変わっていく。こうした事例こそ「道徳の時間を要として全教育活動で道徳教育を行う。」ことが実践されているという事ではないだろうか。

八、おわりに

事情を抱えている学級担任でもできる道徳実践を紹介させていただいた。学級担任は多用である。時間がかかって効果がないものは現場では通用しない。また広まっていかない。道徳読みは、「短い時間で誰でも出来る効果の高い指導法である。」

中学校における道徳教育

道徳科の評価は子供と保護者の心を豊かにする

藤永先生の実践例は、教師への道徳科の授業のあり方、意義について述べられた。

初めに道徳でどのような子供像(人間像)を描いていけばいいのか。「魅力的な人」作りのために、子供たちに考えさせたいことが三つある。一つ目が「こころ」である。それを子供たちにも「どんな心があるといいのだろうか」と考えさせるといいのである。二つ目は「行動」についても、子供たちにも「どのような行動をすることが魅力的な人になるのだろうか」と問いかけることで多様な考え方が出される。三つ目は、上記の二つに加えて「どんな人が魅力的なのだろうか」ということを考えさせることで、これから子供が考ええるものさしになるのではないだろうか。そのためには先ず教師が価値基準を持つていけることが生徒同士の議論や、深い学びの状況の中での反応に促していけるかどうかのカギをにぎる。

次に学習指導要領の四つの指導内容を授業を通して展開することによって「魅力的な人」に近づくと考えている。そのためには段階がある。道徳の時間は人間的な魅力を増やす時

間である。また、道徳の時間は人間的な魅力を探す時間である。そして人間が生きて歩くところを「道」と言う。さらに魅力的な人を昔の人は「徳」がある人と言う。そのような内容を持ち合わせることを「道徳」というのである。

ここで大事なことは、教師と子供の関係である。やはり教師の話を開く、また級友の話を開くという約束を決めておく必要がある。学級が荒れているようでは道徳に限らずまともな授業は保障出来ない。

●道徳の授業とは

人間的な魅力を増やしていく生き方を探すためである。そのためには、教材の中から問題や討議する事柄を見つけて出して「考える・議論する・自覚すること」を学ぶ大切な時間である。

●道徳科の評価のあり方

・道徳の目標に照らして、子供がいかに成長したかを積極的に受け止め認め、励ましていくこと。

「道徳科の評価の目的」

・子供が自己の成長を実感できるものと、し、よりよい生き方に繋げている。また、評価を読む保護者の道徳性も育まれることを期待する。

また、道徳的価値について理解しているか。自己を見つめ物事を広い視野から多面的、多角的に場面を捉

えているか。人間としての生き方についての考え方を深めていたかなどを総合的に評価することが大切である。そのときの教師の言葉やノートに書く言葉は子供にとってプレゼントになるように心がけることが子供を成長させるエキスになるものと考えている。

●評価の事例

・前半は、学習におけるテーマも他人事のように捉え、自分のことばかり考えていて、人の話を受け入れようとしない姿が見られなかった。後半になってからは、教材に出てくる人物に共感したり、友達の見聞にも耳を傾け、受け入れる姿も見受けられるようになってきた。そして、どうしたら人よりもよく生活できるかを考えようとすると記述が多く見られるようになった。

・どのテーマにも、自分の考えをしっかりと持ち、教材の内容を自分事として捉えながら、友達の見聞もしっかり聞き入れ新たな考えを持つことが出来た。さらに自分の生き方をどのようにしたら良くなるかを真剣に考える事ができた。

中等高等学校における道徳教育

浪速高等学校・中学校
若手教師の挑戦―愛から学ぶ国の教育―

一、はじめに

若手教師の挑戦として、①偉人教育、②いじめ対策、③神道教育の実践を紹介する。まず内閣府の調査から、現在の若者の現状について、次のような特徴を指摘したい。

- ・現在の生活に満足しているが、日常生活での悩みや不安がある。
- ・幸福度の判断基準として、友人関係が60・4%を占めている。
- ・したがって若者の多くは、小さなムラ社会を形成しており、健全な歴史観が乏しい。そのため、多様な生き方を示す必要がある。

二、偉人教育の実践

偉人教育とは、「人は人を浴びて人間になる」と言われるように、偉人の生き方を通じて、生徒たちが主体的に多様な価値を探索する営みである。

具体的な工夫として、単に偉人の生き方が「すごい」と終わりがちであったため、「なぜ、すごいのか」「生き方から学んだことは」などの発問を繋いでいくことで改善された。

また二時間におよぶ実践を行った。一時限に偉人の生き方を紹介し、生徒自身に価値を発見させ、道徳的な問いを設定させる。二時限に、設定した問いについて、価値を探索する。

その際、「P4C」の授業方法を参考にした。

留意点を四点にまとめる。

- 将来の志や憧れになりやすいが、偉人は生徒自身の生き方から遠いため、他人事や心理解になりがちである。

- 取り上げる偉人の基準として、「教師が憧れるものに、生徒が憧れる関係性」が理想である。その中でも、銅像や御祭神となっている偉人は、敬慕すべき点が多く、郷土教育も可能であり、歴史観の喪失を防ぐ上で有用である。

- 現代的な課題には、複数の価値が含まれていることから、内容項目を横断的に捉えて、価値のよさではなく、生き方のよさから教材を読むことと、多様な生き方が提供できるとされた。

- 興味関心を引こうとするあまり、福沢諭吉が楠木正成の死を大死と評したような権助論にならない。

三、いじめ対策

教科化の発端ともなった「いじめ対策」の具体的な実践について紹介する。

文部科学省は、「道徳の質的転換によるいじめの防止に向けて①②③」を発表して、次のような実践を示している。

中一においては、一時限に「いじめは、なぜ起こるのか」「いじめられる側にも、問題があるのだろうか」を議論して、本音を引き出す。二時限には、「いじめられる側の気持ちに立つて思ったこと」を再度、議論する。

本音を引き出すことは重要である一方、ここで示された発問は、いじめ被害者への原因追及につながりかねない。いじめ問題については、「絶対にいじめは許さないという姿勢」こそが大切ではないだろうか。そこで、次のような発問の工夫を行った。

- ・「なぜ、いじめはいけないのだろうか。」
- ・「なぜ、いじめはなくならないのだろうか。」
- ・「いじめに対して、自分たちは何ができるだろうか。」
- ・傍観者に対して、「いじめは1%でもあつていいのか。」

このように、いじめは許されないことを伝えつつ、具体的な行動（期待行動）を考えさせた。

四、神道教育

GHQによる教育改革によって、神道と学校教育は断絶され、その功罪を明らかにしないままタブーとされてきた。宗教教育は、教師が教えない教育から、「教師が教えられる教育」へと衰退した。その結果として、暴力的カルト宗教への入信増加、現実的感覚の喪失が指摘できる。

神道教育とは、「神道は 神の心と向き合って 友と一緒に 学ぶ時間」（生徒作の短歌）である。そして、自然と命の連続性・同胞観を醸成している。

全学年を通じて、「礼法教育」「神様になった偉人」、一年生では「日本のしきたり」「祝祭日」、二年生では「古事記の心」、三年生では「世界の日本」「日本の誇り」をカリキュラム化している。

五、最後に

道徳教育推進教師として、様々な提案をしている。

- ・担任に代わり授業を行う。
- ・教師一人につき、一つの教材を決めて学級をローテーションする。
- ・宿泊行事などでの道徳授業。
- ・道徳の授業ノートの開発。

教育雑感

「いじめが最多32万3800件」これは前年度10月下旬、新聞に書かれた見出しである。

文部科学省は全国の小中高などで2016年に認知したいじめの件数が前年度比9万8677件増え、過去最多と発表した。いじめ問題の深

刻化を受け、同省が前年3月、「けんか」「ふざけ合い」(いじり)もいじめと捉えるよう方針を改めたことで、学校が積極的に認知したためと見られる。自殺した児童生徒は同29人増の2444人。このうちいじめが原因とされたのは同1人増の10人で、深刻な事例も依然として多い。

このようなことを受けて学校現場では授業改善・生徒指導の強化策として小学校にも専門の生徒指導の教師を設置した。

最近の小学校における授業では、ペア学習として2〜4人でグループ討議の時間を設け、仲間意識・相互理解することで、いじめ・喧嘩がなくなる・減るのではないかなどささやかな希望のもとで、子供に話し合うよう定型化している。

子供たちに聞くと話し合う必然性が無く黙っているか、お喋りの子の話を聞くだけで終わる。

私が耳にした教師の声を記すと次のような内容であった。

・先生、今のような授業では子供は興味・関心を示さないね。結局は教師の教材研究をして授業に臨まない限り無理ですね。

・先生、〇〇市の教育は終わったよ。先生、現場では、プレテストといって本テストの内容とはほぼ同じものを

行い、全員が100点を取ってから本テストを行う。通知表は全員が「A」なのです。意味あると思いませんか。これで授業中に真面目に勉強する気になりませんよ。

・先生、最近の新任は基礎学力(中学校程度)がないように思うわ。

・先生、教師の怒鳴り声が多すぎるように思うようになった。

・先生、今時の先生は「赤刷り本」を見ながら授業をしているわ。時に休憩時間に子供たちが見ているのよ。etc.

このような声の逆の教育活動をするれば、子供は授業が楽しい、次の時間がドキドキする、授業が待ち遠しいとなり、いじめ・不登校・自殺・学級崩壊などかなり解決すると考えられる。

そこで教師会は、アクティヴラーニングの研究と実践をやりたいですね。

日本教師会第五十八回 教育研究会大会

日 時 平成30年8月4日 12時〜17時
5日 9時〜12時

会 場 「アルカディア市ヶ谷(私学会館)」

研究主題 「明治維新から一五〇年 ―近代教育の功罪―」

協賛校名一覧

淀之水学院昇陽高等学校	東大阪大学敬愛高等学校	興國高等学校	履正社高等学校	大阪暁光高等学校	天満学園太成学院大学高等学校
早稲田攝陵中学校・高等学校	相愛中学校・高等学校	清風中学校・高等学校	清風南海中学校・高等学校	四天王寺中学校・高等学校	香ヶ丘リベルテ高等学校
					P・KIDSスクール